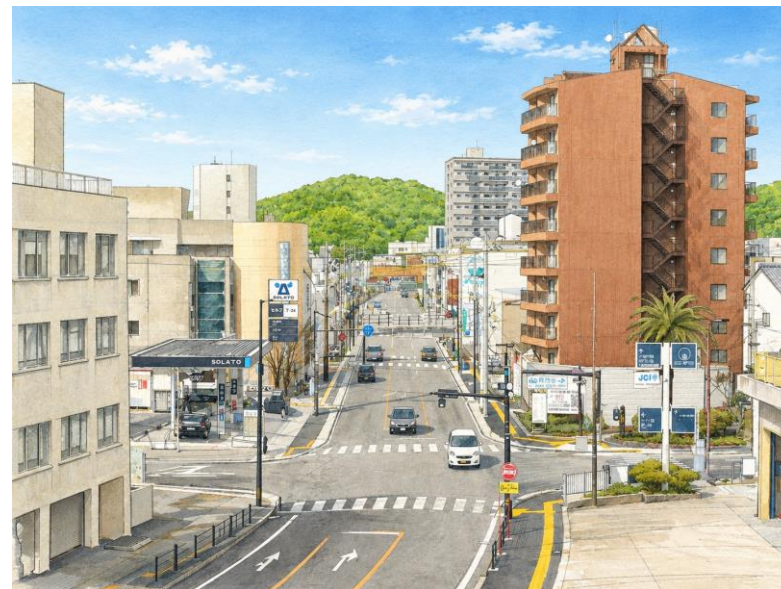


鳴門市まちづくりデザイン会議

第 6 回

議事

- (1) 前回の振り返りと現状報告
- (2) まちなか未来ビジョン
- (3) 基本計画について
- (4) まちのコアについて
- (5) 今後の会議の進め方



令和8年6月2日
鳴門市役所2階大会議室

第5回 鳴門市まちづくりデザイン会議を開催

12月の第4回デザイン会議以降に起きた現状や、新スポーツ施設の立地について報告を行ったほか、鳴門市まちなか未来ビジョン素案で提示したコンセプトと、まちのコアについて議論しました。

参加委員：内藤座長、永易委員、林委員、森下委員、河野委員、西谷委員、黒崎委員、池田委員

現状報告・新スポーツ施設の立地について

自動車公園イルミネーションや「リノベーションまちづくり」講演会の実施について報告しました。

・講演会は約70名が参加し、まちなかの使い方を事例を挙げて報告されました。

鳴門センター街ビル跡地・新スポーツ施設について状況を報告しました。

【新スポーツ施設について】

- ・スポーツ施設の会議では、**早期に実現してほしいとの意見が多かった。**
- ・長期的な目線で、運用コストも含めて検討してほしいと考えている。
- ・委員会の決定事項は尊重する必要があるが、立派な施設を作ったのに使われていない事例も多くある。
- ・「早く欲しい」というのであれば、それに合わせて施設をフルに使うことも考えなければならない。そのため、**施設を最大限に活用される状態を作っていくことも考えてもらいたい。**
- ・市民会館のような施設であれば駅前の方が使いやすいのではないか。
- ・プールと体育館は同じスポーツ施設だが、**本来は利用の仕方が全然違う。**分けて整備するっていう発想は無いのか。
- ・体育館は、色んな目的の方が利用する。**文化施設的な意味合いを持つ体育館については、必ずしもプールと一体で整備する必要はないのではないかと。**
- ・プールと体育館のように大きなスパンを飛ばす構造で2階建てにするというのは、**そんなに効率のいいことではない。**
- ・施設を無理に使ってもらうために機能を追加していくと、維持管理費も増えていく。
- ・近年の建設事情は、大型建築プロジェクトがどんどん遅延あるいは中止になっている。そのため、**鳴門市としては、用意周到にかつ大胆にやるべきプロジェクトであると思う。**
- ・建設コストの増加に関しては、少し前であれば成り立っていたものが成り立たなくなっている現状がある。
- ・投資額を利用人数で割って、一人一人にどの程度の負担が生じるかを計算して判断すると、冷静に考えられるのではないかと。
- ・大きいものを建てすぎてしまうと、次に何か新しいことをするとき障害になってしまうということも考える必要がある。
- ・海に近接した敷地は、湿気と塩分が多く、老朽化が進行しやすいという懸念があるのでは。
- ・小学生の人数は10年後を見据えるともっと減っていくが、学校のプールはものすごく老朽化しているという話を聞く。子供たちが使えるよう早急に整備を進めてほしいという思いがある。
- ・ボートレース西側になると、まちの機能が鳴門市の中で点在することになるので、**中心市街地とどうつなげていくのか、公共交通機関も含めて回遊性整備の検討が必要になる。**
- ・立派な施設ができてまちなかが衰退してしまうということもあるので、大事なのはまちなかを置いてきぼりにしない知恵をしまること。
- ・子供たちに「何年後にはまちなかにこれができる」「このまちなかはこうなっていく」ということを大人が確信を持って伝えられるかどうか大事である。それが言えないと無責任である。
- ・**決断が必要、10年後に向けたはっきりとしたビジョンを描く必要があり、それがこのデザイン会議の役割である。**



自動車公園イルミネーション

第5回鳴門市まちづくりデザイン会議 議事録 概要版

会議の日程

第1回	令和7年3月24日(月) 済
第2回	令和7年6月13日(金) 済
第3回	令和7年8月 9日(土) 済
第4回	令和7年12月2日(火) 済
第5回	令和8年2月18日(水) 15時半～17時半 鳴門市役所2階大会議室



第5回の会議の様子



リノベーションまちづくり講演会



ボートレース鳴門西側敷地

第5回会議の概要

鳴門市まちなか未来ビジョン素案

鳴門市まちなか未来ビジョン素案を作成し、コンセプト案について議論しました。

【コンセプト案】

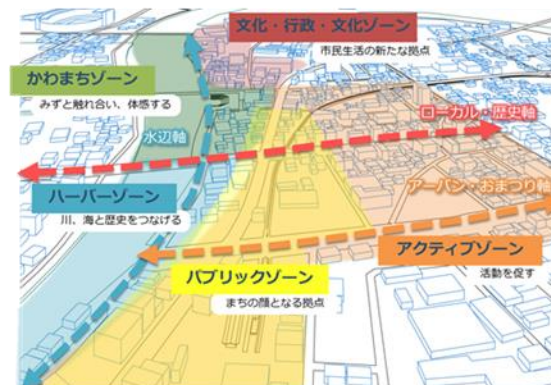
- ・スケッチを見ているだけでも良くなっていくことが感じられる。谷通りと川と繋がることでこのあたりが活性化され、**新しい風が吹いてくる印象を受ける。コンセプト案は①が良い**と思う。③の「むやるじょ」は、なかなかパツとは思いつかばないので、コンセプトとしては難しい。
- ・コンセプトは、**①と④が一番わかりやすい**。「つどう」、「つながる」、「そだてる」のうち、「**つなぐ**」という言葉が**重要**。人と人だけでなく、**場所、世代など、広い意味で捉えられるように**すると良い。
- ・未来ビジョンは見た人は期待するのでそれを裏切らないように。コンセプトはどれも良いが、できるだけわかりやすく、**端的なものが良い**。内容はしっかりされているので、市民等の意見を聞いて決めていければ良い。
- ・コンセプトは当初は「むやるじょ なる」と良いとを推していたが、どれかひとつ選ぶなら**②に1票**。
- ・若い人に発してもらわないといけない。長いと覚えにくいのでは。③の「むやるじょ」がいい。
- ・コンセプトは**①が良い**。まずは「**いい風を吹かす**」ことが**重要**。

- ・若者がワクワクする場に加え、いろんな属性の人が使えるまちにしたい。**このビジョンの中に もう少し泥臭く、鳴門の人でないと出てこない表現を入れていきたい**。
- ・心に響いた言葉は「**このままでよいのか**」という表現、未来ビジョンに込めた思いのページで、行政だけでなく、市民側も同じように危機感を持っていることを示し、多くの人に現状を知ってもらうことが大切である。
- ・活動イメージが示されており、具体的にどのように使われるのかといったイメージ図や、実際これを実施することでどういことができるのかイメージ出来るようになったのは良い。



- 【鳴門市まちなか未来ビジョンのコンセプト案】
- ①鳴門に吹く「いい風」が、愛する「まち」を育てます
 - ②若い風がめぐるまちわれらのなる
 - ③むやるじょ なる
 - ④たのしい暮らしを、おすぞ分け

▶▶ 「いい風」を吹かすことが良いのではとの意見より**①案**を採用することとしました。



まちのコアについて

- ・連続立体交差事業は鳴門のような市街地だと、20年程かかる。**20年後に出来上がっても、まちに人がいないことも考えられる**。
- ・連続立体交差は地方都市ではなく東京、首都圏、名古屋では効果があるが、**地方都市だと費用に対する効果が出ないことが想定される。まちの衰退、人口動態、市場の変化等も踏まえた判断が必要**。
- ・自治体の負担の大きい事業であり、比較検討はしっかりやるべきであり、意見を受け納得してもらえるように勧めて欲しい。

次回の議論の方向性

- ・未来ビジョンのパブリックコメントの報告
- ・基本計画について議論を進める
- ・コアの位置、駅周辺施設の具体的整理を進める
- ・社会実験の内容について共有する

これまでの会議で議事録や資料については、市公式ウェブサイトをご覧ください。右のQRコードからも閲覧できます。



§ 次回は、6月2日開催です。ウェブサイト・広報紙にてご確認ください。

鳴門センター街ビル跡地について

駅西の中核商業ビルであった鳴門センター街ビルにおいて、その活用方法を所有者であるセンター街が検討を行っています。市から所有者代表に補助金を活用した建物の除却について説明を行っており、所有者間で検討を進めているところです。今後も、継続して協議を進めて行くとともに、国の交付金による事業手法などについても国と協議を進めてまいります。



鳴門駅から見るセンター街ビル

新スポーツ施設の立地について

3月26日、第3回新スポーツ施設検討委員会が開催され、新スポーツ施設の建設候補地について議論が行われました。委員からは、早期の事業化を求める意見のほか、施設規模や費用に関する意見などがあり、議論の結果、ボートレース鳴門西側敷地を建設地とすることとなりました。

また、3月17日に開催された市議会全員協議会にて報告を行い、安全性・利便性・将来性を踏まえた計画の検討、プールと体育館の分離建設の検討などの意見をいただきました。

今後、市では基本計画の策定を進める中で、施設の具体的な規模や概算費用等について、より詳細な検討を進めていきます。



ボートレース鳴門西側敷地

空き家活用街づくり支援制度

今年度より、重点まちづくり区域内で、空き家等を利活用することで、地域コミュニティの形成や賑わいの創出に資する拠点づくりを促進するため、空き家等の設計・改修費用の一部を補助する制度を策定中です。

国庫活用型：補助上限額500万円、補助率3/4 取組の運営を10年継続継続する条件
市単独型：補助上限額250万円、補助率2/3 取組の運営を5年以上継続する条件

また、県の補助金（空き家ファイブ）と併せて活用することも可能です。

観光振興や交流・定住人口の拡大のため、徳島県内の空き家及び空き建築物が利活用されるよう、モデル的な空き家等の利活用を実施する民間事業者を補助する制度

業務：上限額100万円（先導事例紹介作成） 改修工事補助：上限額500万円（工事経費の2/3）

市役所夕暮れ市場・鳴門日曜日～まちむすび～

4月15日庁内及び駐車場にて市役所夕暮れ市場を、4月19日・5月17日に市役所南駐車場にて鳴門日曜日が開催されました。

夕暮れ市場は、約30店舗の出店があり、あいにくの雨天でありましたが、市役所屋内も使い、多くの人が溢れていました。

夕暮れ市場は、年2回開催されています。

鳴門日曜日_まちむすびは、毎月第3日曜日に開催されます。4月17日にはキックバイクやパトカーを使ったイベントが、開催されたほか、庁舎内ではポケモンカードを使ったイベントも実施されました。



夕暮れ市場



マルシェと市業務の混在する空間



鳴門日曜日

第5回会議以降の流れ

2月18日

第5回まちづくりデザイン会議
素案の提示



意見を受けてのビジョン案の調整
修正内容はp.8に記載

3月17日

鳴門市議会 令和8年第1回定例会
全員協議会にてビジョン素案の議会説明



3月18日
～4月17日

パブリックコメント
ビジョン案を提示し、市民の皆様からご意見を伺います



意見を受けてのビジョン案の調整
修正内容はp.8に記載
委員への報告・説明

5月1日

まちなか未来ビジョン 策定

まちなか未来ビジョンへの意見

市議会からの意見（抜粋）

- ・若者の意見を活かして欲しい。アンケート結果を活用してほしい。
- ・まちの形だけではなく、人々の意識を変えないといけない。
- ・駅前に図書館や買い物ができるなど市民が集まる複合施設が必要でないのか？
- ・鳴門線が廃線とならないよう、利用者を増やす策を考えるべきである。
- ・駅前は5年程前にも改修を行った。今回改修する目的は何なのか？
- ・駅前跨線橋から見た風景のような“なるとらしさ”を残して欲しい。
- ・DMVの導入なども検討したらよいのではないのか？
- ・全体事業費はどのくらいか、最小の経費で最大の効果を出して欲しい。
- ・地域の交通のネットワークをどうするのか考えて欲しい。

市民（パブリックコメント）からの意見（抜粋）

- ・土地や空き地の有効活用の推進を図って、固定資産の増収を図るべきである。
- ・まちなかが通過型になっている。バスと鉄道が連動する方策の検討してほしい。
- ・市民会館は鳴門駅周辺にあって欲しい。
- ・水路や川で繋ぐルートの検討や他の水上交通との連携により、観光客誘致に繋がるのでは。
- ・新駅には図書機能、自習スペース、チャレンジショップなどを併設して、観光客誘致をセットで検討すべき。
- ・“いい風”を吹かすことを、もっと強く表現してほしい。
- ・JR鳴門駅と高速鳴門バス停が一体化した地域交通ハブを考えて欲しい。
- ・多世代が住みやすい環境を望む。住み続けてよかったと思える街になることを願っている。
- ・鳴門市はコンパクトシティを目指すべきである。

詳細は添付のパブコメ結果を参照

まちなか未来ビジョンの策定

追加・修正内容

【第5回会議を受けて】

- コンセプトを4案の中から「いい風」を含んだ案に決定（p.7）
- はじめにに、都市計画マスタープランとの関係性を追加（p.4）
- 活動イメージに、課題や方向性とこれまでの会議の内容を追加（p.11・13・15・17）
- 活動イメージの俯瞰図を、会議の内容を受け完成版へ（p.20）
- 具体的な取り組みに、新スポーツ施設の現況とまちづくりとの関係性を追加（p.21）
- 具体的な取り組みの一覧に、#むやるんじょを追加（p.22）
- 実施に向けた体制に、まちづくりデザイン会議との関係性を追加（p.25）

【市議会報告・パブリックコメントを受けて】

- 課題や方向性のパブリックゾーンに、鳴門らしさの表現を追加（p.11）
- 課題や方向性のハーバーゾーンに、海上交通への展開を追加（p.15）
- 具体的な取り組みの新スポーツ施設の内容を、進捗に応じ修正（p.21）
- 具体的な取り組みの一覧に、防災の観点「安全・安心のまちづくり」を追加（p.22）

概要版・全体版をウェブサイトで公表



描いたビジョンを市民の方へ周知（12ページに記載）

基本計画とは

本会議で策定した「鳴門市まちなか未来ビジョン」での将来のまちのイメージを実現するため、エリアの中で行う取組について、その目的、内容・規模、位置、時期、事業費、主体、手法、効果等を明らかにするものです。

未来ビジョンから鳴門駅周辺整備基本計画へ

未来ビジョンの取組みでは、時間的観点が見られています。今回策定する基本計画では、まちのコアと新たな拠点づくりなど、短期間の取り組みを中心に策定することとします。

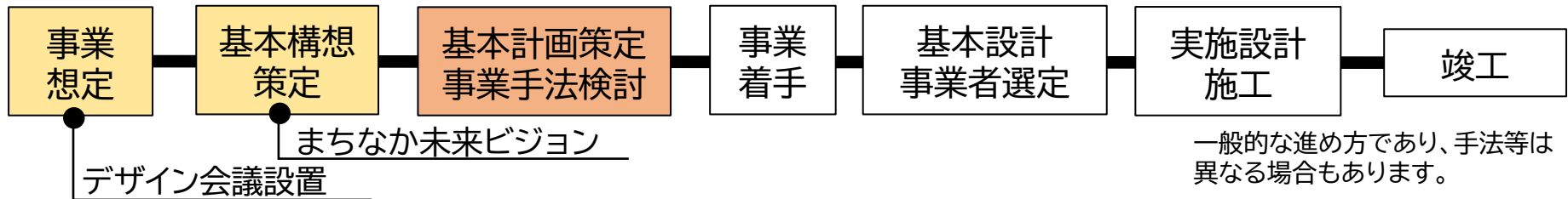
未来ビジョン 取組一覧 (再掲)

No.	取組み	概要	短期 (~5年)	中期 (~10年)	長期 (10年~)
①	まちのコアと新たな拠点づくり	駅や交通広場、カフェ・本・学びを集めた交流機能の整備により、駅及び駅に隣接する場所をつどい、つなぎ、そだてるシーンの象徴となる場にしていきます。	●	●	●
②	民間活力を導入した駅前拠点づくり	民間事業者等による宿泊施設等の都市機能・サービス施設等が集積する拠点づくりの実現に向け、PPPなど、サウンディング調査等から取組みを進めます。	●	●	●
③	2つの都市軸の空間再編・機能強化	車線再編による歩行空間の拡張や歩きやすい歩行者空間の創出、まちなかキャンパスや屋台村の展開、社会実験やほごみち等を活用した道路・公園の有効活用により、日常的な滞在と交流が生まれるウォークアブルなまちなか空間を形成します。	●	●	●
④	リノベーションまちづくり推進事業	空き家や空き地などの既存ストックを活用し、飲食・物販などのチャレンジショップの展開等を通じて、小さな取組みから新たな賑わいを創出するとともに、地域で活動するプレイヤーを育てます。	●	●	●
⑤	港周辺の利活用	谷通りと美奈登橋との接続、撫養港の港湾施設を生かした水上交通の活性化や空き家・倉庫等のリノベーションを促すなど、本エリアを「海の玄関口」として、新たな賑わいを創出します。	●	●	●
⑥	撫養川沿い（ウォーターフロント）の水辺空間の利活用	鳴門駅から文化会館周辺をつなぐ撫養川沿いの水辺空間を市民の日常利用を支える身近な水辺として活用を図りつつ、河川空間のオープン化や遊歩道・浮桟橋の改修、マルシェ等の公民連携事業などを進め、新たな憩いと交流を生み出します。	●	●	●
⑦	文化会館・こども未来館周辺の再整備（令和9年開業予定）	文化・こども・学びの賑わい交流施設として再整備を図ります。年齢・立場を問わず、市民が思い思いの時間を過ごす中で、新たな発見や交流、成長を促す場にしていきます。	●	●	
⑧	計画的な駐車場の確保	車で訪れる人が気軽にまちなかを利用できるよう、停めやすく分かりやすい駐車場の確保を進めます。フリッジパーキングの手法等も参考にしながら、歩いて回りやすい環境をつくり、まちなかでの滞在や賑わいにつなげていきます。	●	●	●
⑨	安全・安心のまちづくり	駅周辺の耐震・対津波化を図ることにより、大規模災害時にも都市の機能を維持し、観光客など多様な人々の安全も確保する防災拠点の役割を担います。	●	●	●
⑩	地域経済循環の取組み	当エリアで出店する人に対する支援や、買い物時のポイント還元等の経済施策を通じて、店を出したくなるまちづくり、まちなかの人が楽しみながら地域内でお金が循環する仕組みづくりに取組み、プレイヤーを増やし、まちをそだてます。	●	●	

基本計画について

事業手順

基本計画策定後は、具体的な事業の設計・整備等を進めてまいります。



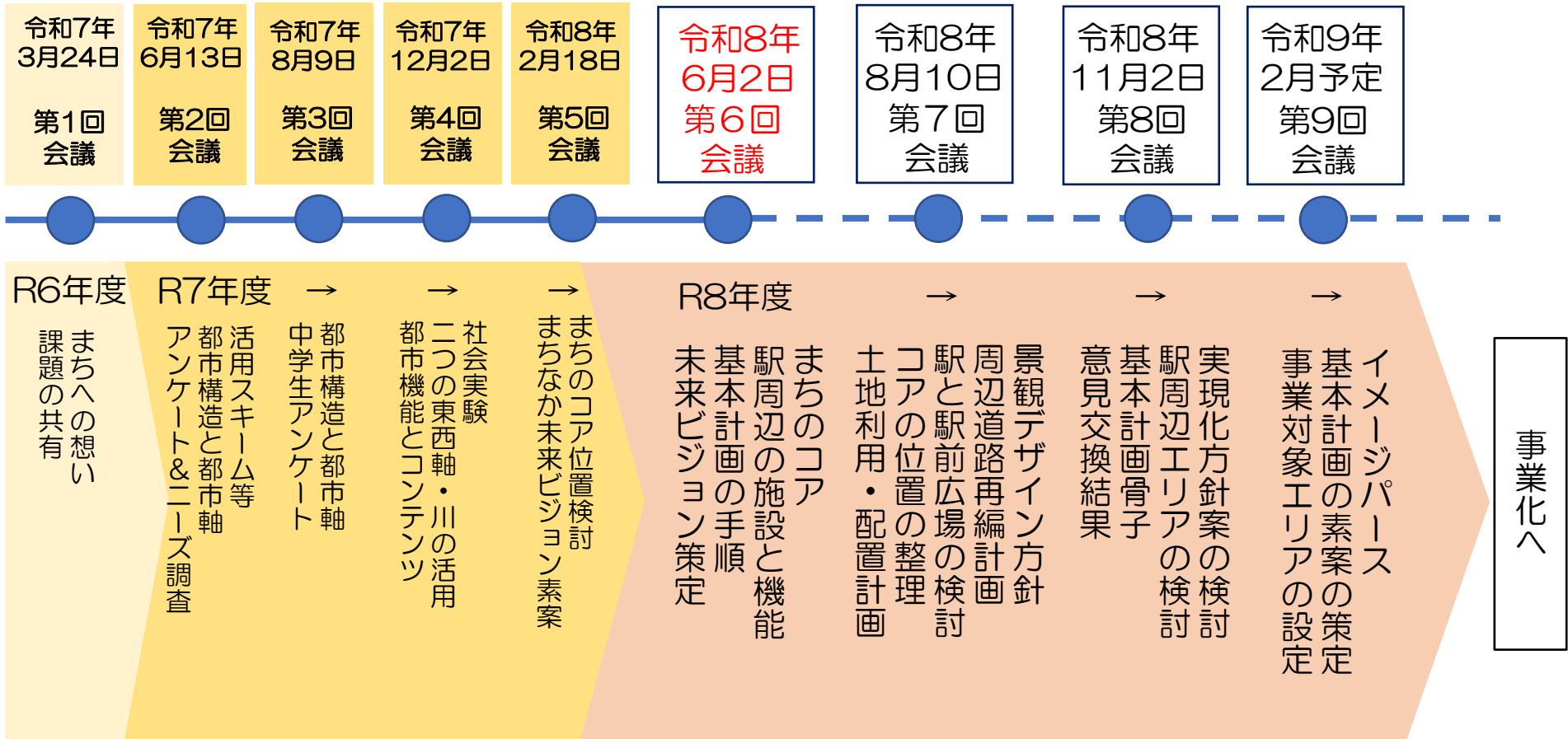
基本計画の内容

基本計画内で決めていく内容は、まちのコアを中心に以下のような内容を考えています。

- 土地利用計画
 - ・ 将来の街区形成
 - ・ 法的条件の整理
 - ・ 導入施設及び規模
 - ・ 土地利用および施設配置計画
(既存施設の移転・再配置等)
- 駅前及び駅前広場整備計画
 - ・ 駅の位置及び形状
 - ・ 駅及び駅前広場へ導入する機能、規模
 - ・ 駅及び駅前広場の施設整備計画
- 周辺道路再編計画
 - ・ 駅前広場へのアクセス
 - ・ 既存道路の空間再編計画
- 景観デザイン方針
 - ・ 建物高さ、色調の誘導
 - ・ 道路構造物、路面舗装
 - ・ 植栽の種類、配置
 - ・ 水辺空間との調和
- 社会実験結果の反映
 - ・ 社会実験の分析と考察
- 整備基本計画の作成
 - ・ 整備計画図の作成
 - ・ イメージパース等の作成
- 実現化方策
 - ・ 事業スケジュール
 - ・ 概算事業費
 - ・ 基盤整備主体、手法
 - ・ 建物整備・運営主体、手法

基本計画策定へのロードマップ案

③基本計画について



事業化へ

ニーズの把握・課題抽出

機能の整理・抽出・概略検討

各論検討・イメージ案づくり

基本計画策定に向けた業務

未来ビジョンの周知

ウェブサイトでの公開（5月）、広報紙による周知（7月）
市街地整備課Instagram等からの投稿（6月）

どのような街を考えているかのイメージの共有



市民の方との意見交換

小学生： 前回アンケートを受けての意見徴収（7月）
中学生・高校生： webアンケートの実施（7月）、**中高生WSの開催（8月）**
一般： **まちを使う人へのヒアリング（4-5月）**、一般向けWSの開催（9月）
高齢者： いきいきサロンでの意見徴収（7月）

いつ・何を・どのように使うのか、市民の意向を把握



交通量調査・行動分析

市中心部における回遊行動分析（都市内行動の把握）（6-7月）
鉄道等駅前利用者の行動分析

現状を把握し、将来の街の流れを分析

※実施月は
予定です。

市民の声とまちづくりの考えを組み合わせしていく

未来ビジョンを受けてのヒアリング

未来ビジョン策定を受けて、その実現に向けての考えや基本計画策定に向けた基礎情報の把握のため、関係団体にヒアリングを行いました。

ヒアリング期間： 令和8年4月下旬から5月中旬

ヒアリング対象： 市中心部および鳴門駅周辺で活動されている団体
（イベント施行者や店舗経営者など主に30-50歳世代）
13団体15名、延べ13時間

ヒアリング目的： 鳴門駅周辺エリアの活動イメージや未来ビジョン実現に向けた各団体の関わり方、令和8年度実施予定の社会実験について、意見を聞くため。

調査方法： 対面もしくは、オンライン



オンラインでのヒアリング状況



未来ビジョンを受けてのヒアリング

③基本計画について

ヒアリングの結果、このようなご意見がありました。

詳細は現在取りまとめ中です

- 自然を生かした体験コンテンツ（釣り、SUP、ヨット等）を強化することで鳴門独自の魅力となる
- 渡船を常に周遊させることで、観光客も楽しめる乗り物になる
- 水辺に良い空間ができれば、商店街や駅を訪れる人が増えると思う
- 大鳴門橋の自転車道の開通とあわせてサイクリングロードを整備してほしい
- 新たにできることも未来館が子どもが楽しめる施設となることを期待している
- 昔は子供が集まっていたが、今は人通りが少なく活気がない
- 商店街の空き店舗等が有効的に活用できていない
- 谷通り沿いに、学生が部活動をはじめとした自由な活動できる場所があるといい。
- 高速バスの乗り場が駅から遠いなどをはじめとした都市構造の問題もあり、鳴門駅に人が来ていない
- 学生がゆったりできる場所が少ない

まちなかに「いい風」を吹かせていく。駅前には人が集まる街の拠点であり、行政と民間事業者が寄り添い、あらたな鳴門の顔を作り上げていく。

基本計画の策定に向け、学生の視点を取り入れながら、駅舎と交流機能を備えた複合施設の機能や使い方を検証

実施目的

基本計画に反映する
利用者目線の具体化

駅舎と交流機能を備えた複合施設について、主なターゲット層である学生が「使いたい」と思える機能や過ごし方を把握

意見交換の内容

- 1 機能**
駅舎・交流機能を有する複合施設に必要な機能
- 2 使い方**
放課後・休日・電車の待ち時間など、想定される過ごし方
- 3 プランの是非**
配置・居場所の作り方に対する意見

対象者・時期

鳴門高等学校
鳴門渦潮高等学校

鳴門第一中学校
鳴門第二中学校

※対象校は調整中

夏ごろに実施予定

プラン（案）やイメージイラスト等を
参加者に提示し、意見交換を実施

基本計画にて掲げる目標指標

重要業績評価指標 (KPI)

key performance indicator
 事業を行う上で、目標の達成度を客観的に確認するためには、
 評価基準を設定し管理することが必要です。

本市の上位計画に示すKPI

■鳴門市総合計画にて示されている本計画に関連する成果指標

公民館利用人数	文化財公開事業への参加者数
ドイツ館周辺への来訪者数	都市計画制度活用件数
路線バス利用人数	路線バス利用者の満足度
空家等除却実施戸数(補助・減免によるもの)	鳴門ウチノ海総合公園活動(イベント)開催参加人数
社会増減人口	排水機施設更新基数
木造住宅耐震改修着手戸数	救急救命士養成者数
消防施設耐震化着手数	企業誘致件数(サテライトオフィス含む)
がんばる中小企業パッケージ事業数	認定農業者数
鳴門市観光入込客数	市民等との協働事業数

※総合計画の成果指標は概ね4カ年で設定しており、計画の変更等は適宜する場合があります。

都市計画マスタープランの目標値・指標は、総合計画や総合戦略にて位置付けられているまちづくりに関連する指標を用いながら、達成状況等を適宜把握することとします。

■なると未来づくり総合戦略にて示されている本計画に関連する重要業績評価指標(KPI)

鳴門市で住み続けたいもしくは一度は出るが帰ってきたいと思う高校生の割合	
鳴門市に愛着を感じると回答した子どもの割合	
将来、鳴門市で働きたいと思う高校生の割合	
がんばる中小企業応援パッケージ事業利用件数 ※	
企業進出件数(市内企業の増設を含む。)	次世代の担い手確保(新規・継続含む)
農漁業六次産業化推進支援事業の支援件数	外国人観光客入込数
サイクルツーリズムの関連イベント参加者数	レンタサイクル利用者数
道の駅「くるくる なると」年間入込客数	鳴門駅前テナント利用者数
移住相談窓口を利用した移住者数	なると定住促進住宅取得補助金を活用し、市内で住宅を建設又は購入した世帯数
市民との協働事業数 ※	出前講座・地域出前防災教室開催
ドイツ館周辺への来訪者数 ※	観光入込客数 ※

※総合戦略の重要業績評価指標は概ね5カ年で設定しており、計画の変更等は適宜する場合があります。

他市町のまちづくり基本計画で示すKPI例

徳島市の例(徳島市中心市街地活性化基本計画 R4.3 抜粋)

目標	目標指標名	基準値(R2)	目標値(R8)
来街者数の増加	ランドマーク施設来館者数	2,441千人	3,741人
回遊者数の増加	まちなか歩行者通行量	15,697人	20,807人
居住者数の増加	まちなか居住者数	7,546人	7,567人

大和郡山市の例(近鉄大和郡山駅周辺地区まちづくり基本計画 R1.7)

まちづくりの戦略

- ①：駅周辺に人が集まる仕掛けづくり ②：地区を回遊させる仕組みづくり
 ③：安心安全に歩ける環境づくり ④：官民連携のまちづくり

戦略	指標	現状値(R1)	目標値(R5)
①	社会増減数(転入-転出)	-338人	-150人
①	商業販売額	829億円	900億円
①②③④	地区内のイベント事業件数	累計件数10件(R1-R5)	
②③	観光客数	1,123,982人	1,350,000人

基本計画にて掲げる目標指標

本計画で掲げるKPIについて、未来ビジョンの基本方針から考察しました。

「最終的に目指す姿（成果）」を測る成果KPI（KGI：Key Goal Indicator）☆ と、
「その達成に向けたプロセス」を測るプロセスKPI ◇ に分類し提示しています。

○ 若者に支持される “わくわくするまちなか” を目指す

☆中心市街地の歩行者通行量 ☆若者世代の転出入数 ☆アンケートでの「まちなか満足度」
◇イベントの開催回数 ◇新規出店店舗数 ◇SNSの投稿数

○ 進化する都市構造から ” エリア価値の向上” を図る

☆エリア内の地価変動率 ☆エリア内の店舗・事業所の空室率 ☆エリアの居住人口
◇エリア内の道路・公園等の再整備率 ◇企業等への誘致活動の実施回数

○ コンテンツの整備・誘導により “人が溜まる” 空間をつくる

☆エリア内の平均滞在時間 ☆イベントでの総来場者数 ☆アンケートでの「お気に入り度」
◇公園等の年間活動日数 ◇設置したベンチやアート作品数

○ 公と民が連携し “まちを動かす人材” を育てる

☆まちづくりに関わる団体数 ☆起業事業者数 ☆民間主導のプロジェクト数
◇WS開催回数・参加者数 ◇まちづくり関連補助金の申請件数

○ 地域の魅力とまちをつなぎ “鳴門らしさ” のある街を生み出す

☆観光地からエリアへの流入率 ☆エリア内の特産品販売額 ☆アンケートでの「鳴門らしさ」回答率
◇特産メニュー提供店舗数 ◇空き店舗・遊休不動産を活用したリノベーション事業件数

デザイン会議での意見を受けて決定していく

駅周辺の施設整備について

駅周辺とは・・・

駅周辺の施設は、大きく「交通機能」、「環境機能」、「駅舎・交流機能」の3つの機能に分類することができます。

【駅周辺の施設】

交通機能

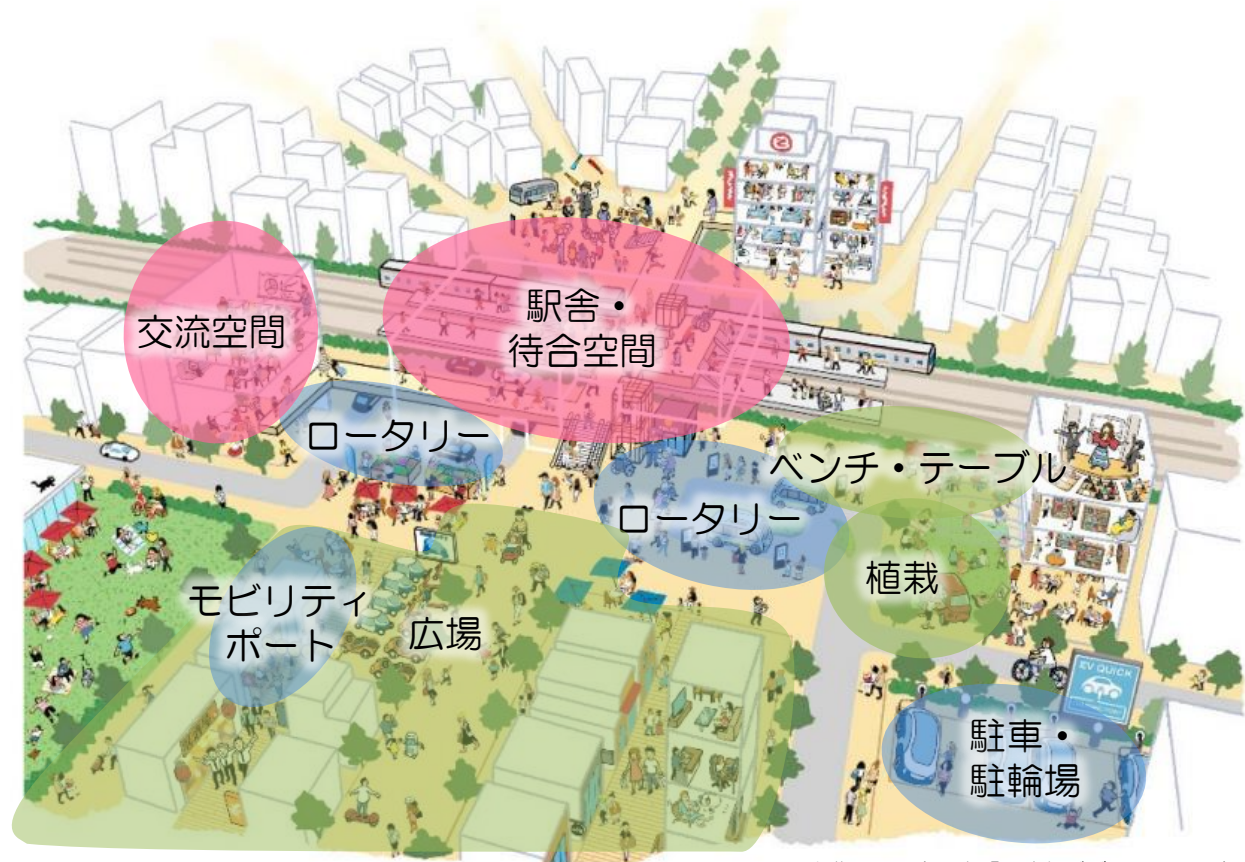
- ・鉄道やバスなど、人の移動を効率的に結節・分散させる機能
- 例) ロータリー、モビリティポート等

環境機能

- ・屋外で人の滞留やにぎわいを生む機能（発災時は防災拠点も）
- 例) 広場、ベンチ・テーブル、植栽等

駅舎・交流機能

- ・屋内で滞留や交流を促し、都市の拠点としての機能
- 例) 駅舎、待合空間、交流空間等



出典：国土交通省「駅まちデザインの手引き」

まちの規模・形状・形態等に応じた機能を配置

駅周辺の施設整備について

鳴門駅周辺の現状・課題を踏まえて、「交通機能」、「環境機能」、「駅舎・交流機能」の3つの機能を検討します。

	交通機能	環境機能	駅舎・交流機能
現状	<ul style="list-style-type: none"> バス・鉄道の利用者が減少傾向にあるものの、学生の通学利用等地域の方々の利用が一定数存在する 高速バスの停留所が駅から遠い 	<ul style="list-style-type: none"> 駅周辺に日常的にもイベント時にも活用可能な広場空間が少ない 近くに川があり、自然を感じられる 	<ul style="list-style-type: none"> 学生をはじめとした市民や来訪者がくつろぐことができる場所が少ない
課題	<ul style="list-style-type: none"> 周辺の交通モードや公共交通機関の利用者属性を踏まえた交通空間の形成が求められる 	<ul style="list-style-type: none"> 自然を生かし、自由に活動できる広場整備が求められる 	<ul style="list-style-type: none"> 市民や来訪者が集い、くつろぐことができる空間の形成が求められる
求めるイメージ			
鳴門の顔となる駅まち空間			
方向性	利便性の高い交通空間の形成	市民の居場所となる空間の形成	
		風や自然を感じる屋外空間の整備	多世代が集う交流拠点の形成
導入機能	<ul style="list-style-type: none"> バス・タクシー・一般車 ロータリー 駐輪場・駐車場 モビリティポート 	<ul style="list-style-type: none"> 広場 植栽 ベンチ・テーブル 	<ul style="list-style-type: none"> 駅舎 待合空間 商業空間 交流空間

10年後を見据えた機能を検討していく

駅周辺に求められるコンテンツ

駅周辺に欲しいものとは・・・

鳴門駅周辺で「どんな空間で」「どんな過ごし方をしたい」のか、市役所で開催したマルシェにてアンケートを取ってみました。

実施日時	場所	参加人数	実施方法
4月15日(水) 16:00~20:00	鳴門市役所1階 ※マルシェ来場者を対象に実施	164名	鳴門駅周辺でどんな過ごし方をしたいかをテーマにしたシール投票



アンケート実施状況

	目的に合わせて 過ごせる空間	静かに過ごせる 空間	誰でも自由に 使える空間	にぎわいのある 空間
ひとりで ゆっくり過ごす	14	18	12	13
友達・家族と 過ごす	58	7	22	75
子どもと 過ごす	21	7	9	16
勉強や作業を する	3	8	12	3
短時間で 過ごす	4	5	9	12



※色が濃いほど票数が多いことを示しています



今年のアンケートと合わせてみると・・・

駅周辺に求められるコンテンツ

R7 夕暮市場マルシェアンケート回答抜粋

にぎわい・楽しさ

- ・ゲームセンターやカラオケ
- ・映画館や水族館
- ・商業複合施設
- ・キッチンカーの集まるイベント
- ・いぬねこカフェ
- ・おしゃれなカフェ
- ・アスレチック
- ・放課後気軽に遊べる場所
- ・カルチャーセンター
- ・スポーツ広場
- ・写真映えスポット

休憩・やすらぎ

- ・噴水や水飲み場
- ・気軽に座れるベンチ
- ・キャッチボール出来る場所
- ・遊具のある公園
- ・イベントの出来る公園

便利・使いやすさ

- ・駐車場（〇時間無料）
- ・レンタサイクル
- ・DMVの導入
- ・自習スペース
- ・素泊まりできるホテル
- ・スーパー
- ・コンビニ
- ・赤ちゃんスペース
- ・雨に強い駐輪場

その他

- ・街灯を増やして欲しい
- ・時間をつぶせる空間
- ・等身大フィギュアのようなシンボル
- ・ギャラリー

R8 夕暮市場マルシェアンケート主要回答

- ・賑わいのある空間で、友達・家族と過ごす
- ・目的に合わせて過ごせる空間で、友達・家族と過ごす
- ・自由に使える場所で、友達・家族と過ごす
- ・目的に合わせて過ごせる空間で、子どもと過ごす

×

||

アンケートから
見えてきた傾向は・・・

飲食・カフェ
子どもの遊び場・公園
買い物（スーパー）
駐車場



+

さらに、
観光需要も考慮



他市町の駅舎・交流施設事例

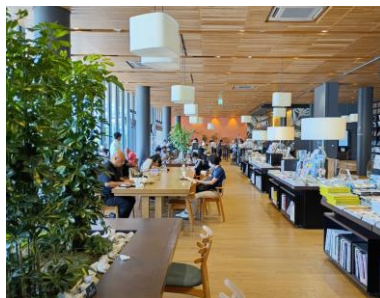
目指すべき姿とは・・・

駅に併設する施設として、これまでも事例を挙げた施設について、その自治体の規模とともに施設の内容をまとめました。ここでは、先進事例を参考に規模感の確認を行います。

市町名	人口	駅名	延床面積	施設内容
周南市	13.2万人	徳山駅	5,256m ²	図書館兼書店+カフェ (2,374m ²) ・交流室・共創センター
敦賀市	6.0万人	敦賀駅	2,661m ²	観光案内所・飲食店・多目的室・書店・カフェ・子供施設
高梁市	2.5万人	備中高梁駅	2,251m ²	観光案内所・図書館・カフェ・多目的室・自習室
延岡市	10.8万人	延岡駅	1,659m ²	書店・カフェ・待合所・子供施設
三次市	4.9万人	三次駅	622m ²	観光案内所・物販・交流スペース・休憩所
見附市	3.7万人	見附駅	244m ²	交流施設
西予市	3.2万人	卯之町駅	156m ²	待合所 屋内空間は98m ²

※三次市は交通観光センター ※敦賀市はオルパークとOTTAの合計

①



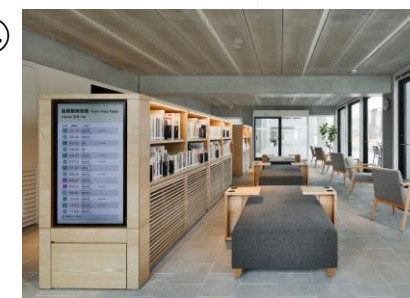
②



③



④



⑤



⑥



⑦



- ① 周南市立徳山駅前図書館
- ② 敦賀市OTTA「ちえなみき」
- ③ 高梁市立図書館
- ④ 延岡駅前複合施設エンクロス
- ⑤ 三次市交通観光センター
- ⑥ 見附駅MITSUKERU
- ⑦ 卯之町駅

駅×街の関係性1

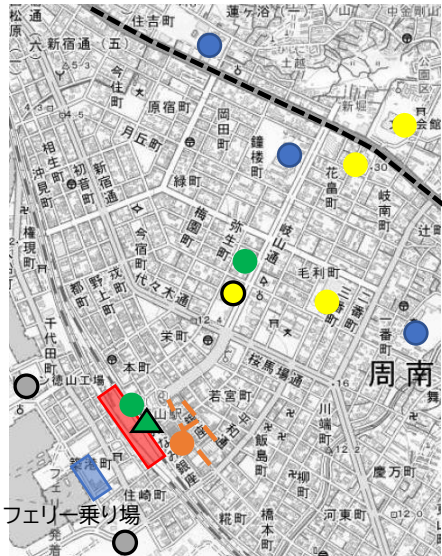
駅に併設する施設は、まちと駅の関係性や、周辺に立地する施設との関係性が影響しています。近年の駅周辺を再整備した事例から、分析します。

駅の役割・タイプ

- ・通勤結節型 : 朝夕のピークが支配的、乗換・待ち時間需要中心
- ・地域中心型 : 駅が日常活動の接点（滞在・学習・行政・医療等が集積）
- ・観光玄関口型 : 休日・季節差が大きく、案内・荷物・短時間休憩が中心

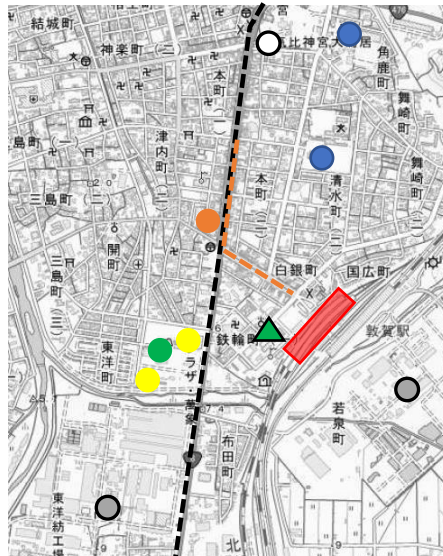
凡例			
駅	■	学校	●
市役所	●	工場	●
公共施設	●	観光	○
図書館	●	国道	-----
商業施設	●	商店街	- - - - -
カフェ	▲		

徳山駅（周南市）



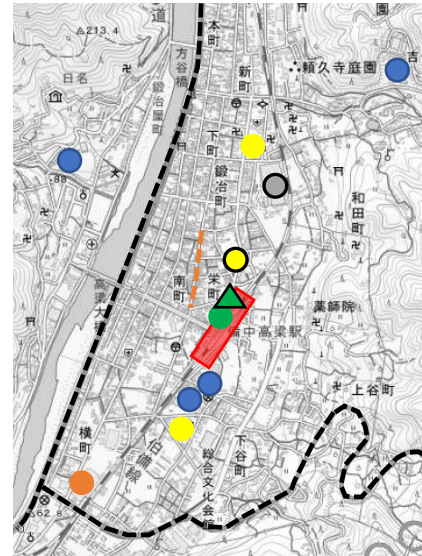
通勤結節型
+ 地域中心型

敦賀駅



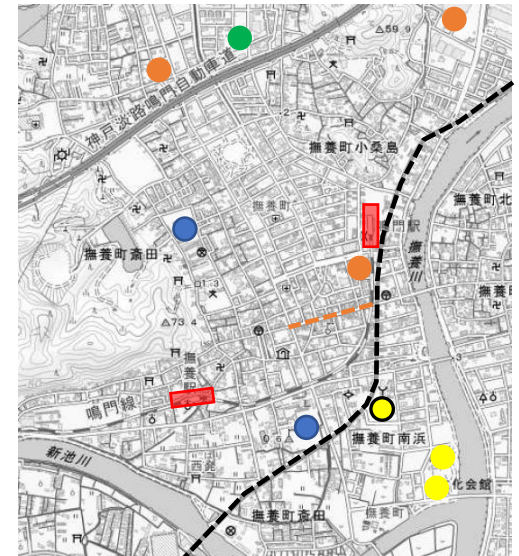
観光玄関口型
+ 交通結節型

備中高梁駅



通学結節型
+ (地域中心型)

鳴門駅



通勤・通学通過点
+ 観光通過点

地理院地図を加工して使用
S=1:30,000 [300m]

駅×街の関係性2

徳山駅：駅が街の南北を分断 → 駅は南北の結節点 → 市民が滞留・交流する目的地へ
 → 滞留の核となる駅前図書館を設置し、そこから街なかへとつなげていく

敦賀駅：周辺地域との交通ハブ、観光需要 → まちの玄関口の役割 → 待ち時間の価値化
 → 駅舎は交通・観光機能に特化し、駅周辺エリアに付加機能（商業・飲食）を配置

高梁駅：周辺に高校・大学 → 若者の居場所不足 → 市民と学生の日常生活の拠点
 → ターゲットへのニーズを集中投下 → 駅舎一体型の図書館にカフェを併設

本市のまちのコアの現状と目指すべき姿とは

現状：通勤・通学は通過、観光客も通過。
そもそも駅周辺に、人が集まる
まちのコンテンツが揃っていない。



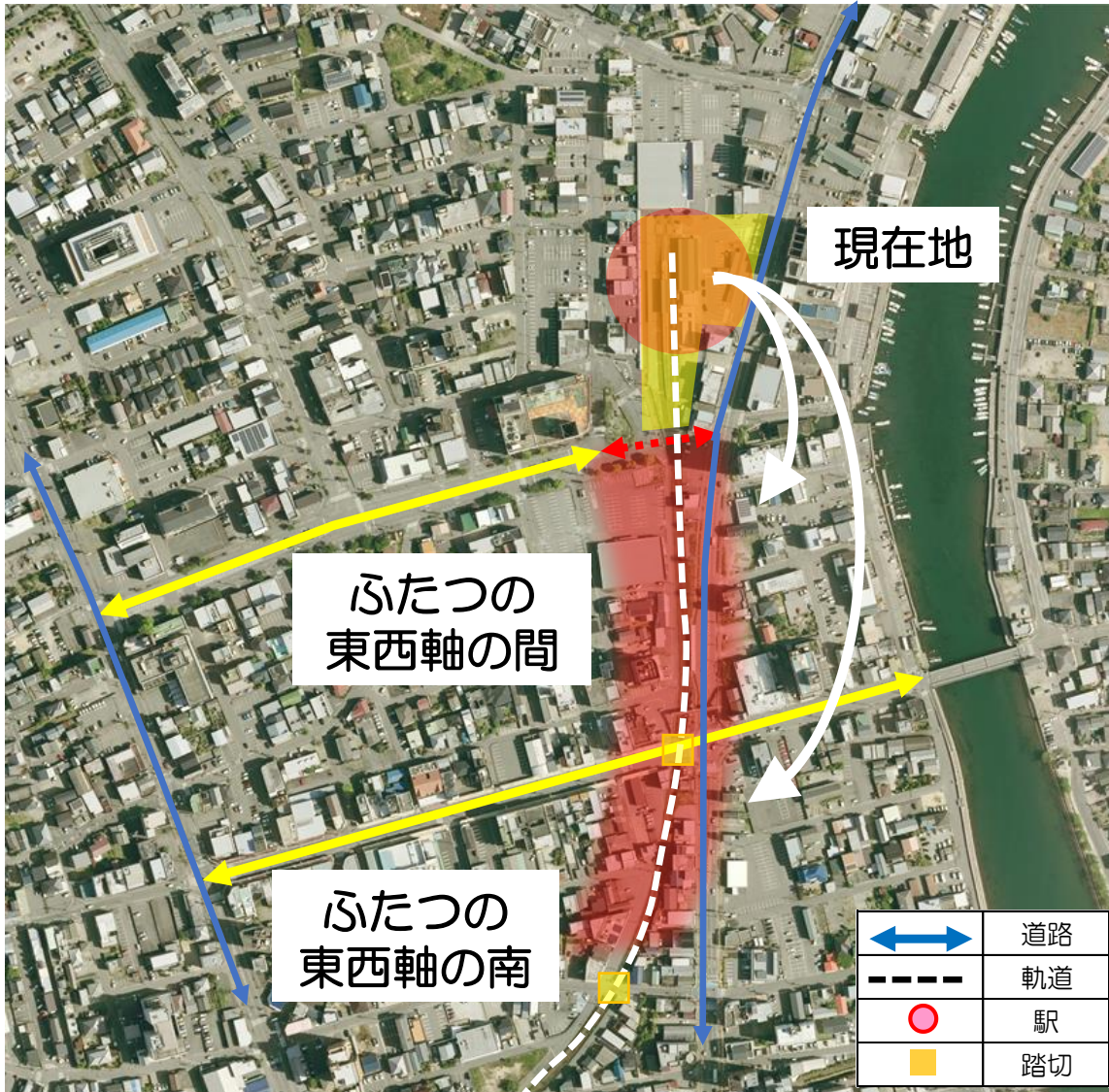
目指すべき駅：
 中高生や地域住民、ビジネスパーソンが滞在できる地域中心型機能をベースに、観光客も立ち寄れる観光玄関口機能を併せもつ拠点
 「学生・市民の日常」×「観光客の非日常」

駅周辺のコンテンツ事例

機能分類	導入機能名	内容	運営主体	
交通 環境	駅前広場	交通結節点であり、イベントや憩いの場となるオープンスペース	公共	
駅舎・ 交流機能	駅舎	駅務室	精算、案内業務を行う。運行管理の拠点	鉄道事業者
		宿直室	乗務員が仮眠・休憩をとるための部屋	
		改札	駅の有料・無料エリアを区分	
		トイレ	乗換・待合せ場所には必須	公共
		授乳室	子育て世代の利用、プライバシーが確保された空間	
	待合空間	観光案内所*2	地域の観光情報、交通アクセス、宿泊施設等を案内	公共
	商業空間	物産館スペース	観光客向けに必須	公共・民間
	商業空間	店舗	コンビニなど、利用者のニーズに応え、駅の利便性を高める商業テナント	民間
	商業・ 交流空間	カフェ	飲料や軽食を提供し、待ち合わせ、休憩、学習、仕事など多様な滞在ニーズに応える空間	
	交流空間	図書スペース	学習・読書スペースを提供。市民の利便性を高め、滞在を促す	公共・民間
交流空間	多目的室	会議、サークル活動等、予約して多目的に使える貸しスペース	公共	
交流空間	交流・会所スペース	誰でも自由に休憩や談話ができるオープンスペース		

まちのコアについて

<第3回・第4回 会議資料再掲>



コアがどの場所にあれば、
都市構造が活性化し、
民間投資を誘引できるか



【第3回会議】での提案

- ① 現在地で西向き
- ② ふたつの東西軸の間
- ③ ふたつの東西軸の南

検討要件

- 駅とまちの関係性
- 駅と道路の関係性
- 交通結束機能の確保
- 鉄道の技術的可能性
- 周辺の発展性



①-③案を比較

まちのコアについて

まちのコアの位置の比較検討の視点<第4回 会議資料再掲>

第4回会議での視点	比較検討の視点	視点の概要
駅とまちの関係性	まちの構造	このエリアの歴史背景を踏まえて、「駅」がまちの中心（コア）として十分な役割（周辺につながる人の動線のハブ）を發揮することができる。
	アイデンティティの醸成	撫養街道における人の往来の起点としての役割を發揮できる。
駅と道路の関係性	回遊性向上	駅を中心に、各ゾーンへの回遊性向上が期待される。
交通結末機能の確保	JR乗客への影響	現在の鉄道駅利用者の利用利便性が確保される。
	交通結節機能維持・強化	鉄道とバス、タクシー等、2次交通との交通結節機能が維持、強化される。
鉄道の技術的可能性	鉄道駅の設置の行いやすさ	既存の鉄道線形や市街地の状況を踏まえ、鉄道駅の設置が行いやすい。
周辺の発展性	駅跡地の活用のしやすさ	駅が移転した場合に、その跡地の活用をまちの発展につなげやすい。
	撫養川との関係性	撫養川の水辺を活用したまちづくりとのつながりを生み出しやすい。
実現可能性	合意形成の容易さ（地権者調整）	新たな駅の設置に際して生じる影響（用地の確保等）に関する合意形成が行いやすい。
	実現までの時間	早期に実現できる。

技術的に可能かどうか、コア移転の可否を握る

鳴門駅の基礎的条件

配線形式

- 10:00以降は60分間隔のパターンダイヤにて運行
- 朝6時台に出発の2便は、鳴門駅に夜間滞泊した車両が運行



日中は単線での運行が可能であるが、夜間滞泊の観点から2線が必要



- 配線形式は、現在と同様の島式1面2線を基本
相対式2面2線についても検討
終着駅であることを考慮したホーム形式

鳴門駅時刻表（平日）

到着	出発	編成
夜間滞泊 →→	6:32	2両
夜間滞泊 →→	6:51	3両
7:27 ……	7:32	3両
8:09 ……	8:14	2両
9:01 ……	9:08	1両
9:43 ……	10:00	1両
10:37 ……	11:00	1両
11:37 ……	12:00	1両

令和8年5月現在、編成は参考
6:51発は土曜日休日運休

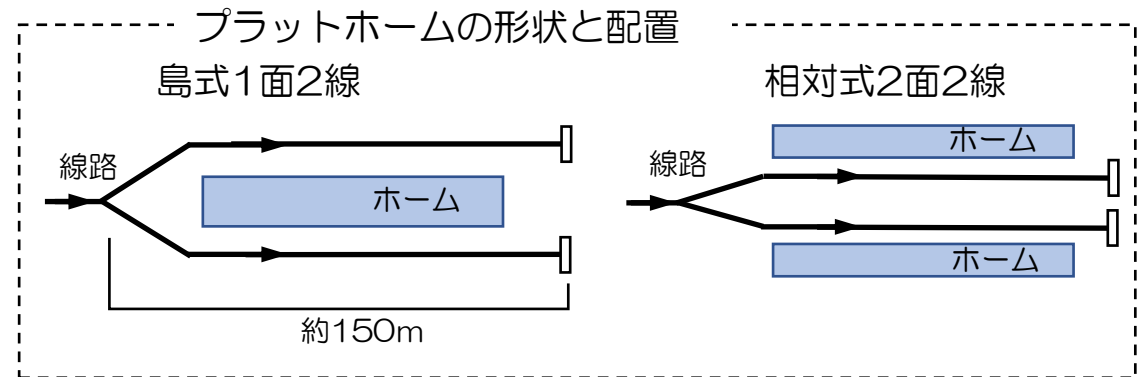
到着	出発	編成
12:37 ……	13:00	1両
13:37 ……	14:00	1両
14:37 ……	15:00	1両
15:37 ……	16:00	2両
16:37 ……	17:00	2両
17:37 ……	18:00	2両
18:37 ……	19:00	2両
19:37 ……	20:00	2両
20:40 ……	21:00	1両
22:10 →→	夜間滞泊	2両
23:37 →→	夜間滞泊	3両

幾何構造基準

- ホーム部_最小曲線半径 $R=400m$
(鉄道技術基準に基づく考え方)

プラットホーム

- 現在、3両編成が最大であるが、阿波踊りなどイベント時など4両で運行の可能性
→ 4両編成にて検討、線路の分岐、停車の制走堤を含むと駅施設に約150m程度の距離が必要
- ホーム高さは、軌道敷から1.1mとする



鉄道駅の技術的検討①

線路の曲線部にホームの設置は可能か？

基礎的条件の、ホーム部_最小曲線半径 $R=400m$ は、鉄道の技術基準に基づく考え方であり、検討区域の曲線は、 $R=300m$ であり、上記基準を満たさず、**現在線上への新設ホームの設置は不可**

③ ふたつの東西軸の南は、現在線がほぼ曲線区間

現在線位置、その曲線の内側・外側に軌道を設置する場合、どのようになるのか？

【曲線部でのホーム設置のデメリット】

ホームと車両の隙間(段差)	直線区間に比べ、車両とホームの間に大きな隙間や段差が生じやすく、乗降時に足を踏み外す危険性 ベビーカー、車椅子利用者の乗降に大きな障壁
見通しの悪さ	運転士等は、曲がったホームの全体を見渡すことが難しく、これにより、発車時の安全確認が困難
建設コストの増加	曲線形状のホームは、直線ホームに比べ測量や設計、施工が複雑であり、建設費用が高騰する傾向



ホームと車両の間が大きく開いた事例



鉄道駅の技術的検討②

現在線位置に設置の場合

- 現在線の外側に仮線路が必要となる。
- 仮線は新駅設置後に撤去となる。
- 鳴門踏切周辺に駅が設置され、道路が分断される。
- 仮線設置など工程が多く、工事期間が長くなる。

現在の外側に駅を設置する場合

- 国道28号まで線路が影響する恐れがある。
- 街区の道路を分断するうえに、駅前機能（広場・ロータリー）を設置する面積が無い。
- 東西軸から大きく外れる。

現在の内側に駅を設置する場合

- 丸池踏切手前からの線形変更となり、踏切の工事が生じることより、道路交通にも影響が生じる。
- 支障区域が、丸池踏切から大道踏切まで広がる。
- 鳴門踏切は移設となり、新駅西側の街区道路を見直す必要がある。



3つの検討案とも周辺への影響が大きい



鳴門踏切



曲線部状況

駅周辺機能も含んだ総合的な観点で
駅位置やホームの配置などを確認

技術検討と合わせ総合的な検討を進める

街なかでの社会実験

現在、以下のような社会実験の準備を進めています。その結果を、まちづくりに活用していきます。

STEP1 駅前観光案内所

現在の鳴門駅の北側に隣接する駅前観光案内所を、観光案内の機能は残したままで、たまり場として過ごしやすい環境整備を行うことで、若者がどう集まり、どう過ごすのかを検証していきます。

【スケジュール案】

- | | |
|--------------|-------------------------|
| 内装工事： 6- 7月 | ・期間中に将来の公共空間の活用可能性を検証する |
| 社会実験： 7- 9月 | ・イベントを予定 |
| 効果検証： 10-11月 | ・実験後も施設等は継続的な活用を想定 |



現在の空間を、おしゃれで使いやすい空間へ

「点」としての機能そのものの強化 検証を重ね、将来の施設の検討を進める。

STEP2 谷通り+汽車公園

道路空間に余裕のある谷通りと、その中心に位置する撫養第3公園（汽車公園）を活用し、谷通りのポテンシャルや、活用による人流の変化を確認するほか、利用する上での条件等を整理します。

【スケジュール案】

イベント開催：9-11月



広い空間を利用し、飲食などのイベントへ

「点」を「線」（回遊）に繋げる

次回会議(第7回)の概要

○ 機能の具体的整理

- ・ 鳴門駅前に必要な機能
- ・ 優先すべき配置とは

○ コンテンツの整理

- ・ 求められるコンテンツ
- ・ アンケート結果より

○ 検討内容の抽出

- ・ ゾーン案
- ・ コアの位置の評価

○ 景観デザインの検討

- ・ なるとならしさとは
- ・ 景観デザインの方針

○ 社会実験

- ・ 社会実験の進捗状況



第7回会議は令和8年8月10日に開催します。

鳴門市まちづくりデザイン会議